



5号

1998年 秋・冬号

イグナチオ教会と 愉快的仲間たち

「もはや二人ではなく一体 (One) である」 マタイ19・6

新しい聖堂で、心も新たに 結婚クラス・セミナーの「結婚感謝の集い」



「結婚感謝の集い」実行委員募集！

今年は間に合いませんでしたが、来年の「感謝の集い」は、懐かしいヘルパーたちと一緒に、皆さんの手で楽しいものを企画してください。よろしくお祈りします！

主なトピック

- 結婚感謝の集い、再び
- 司祭からのメッセージ
- 座談会「コミュニケーション」
- それって本当？
- 教会学校へどうぞ
- 教会からのお知らせ



15年前から始められた「5ヶ月間・20回」という全国でも珍しく充実した結婚準備講座の受講修了者は今や5000名を越えました。今年もクラス、セミナーの修了者のための「結婚感謝の集い」を計画しました。

結婚セミナー修了者のための、感謝の集いは、

11月29日(日) 15:45から聖イグナチオ教会の大聖堂で！
広くなった聖堂を最大限に利用して、今年はいっそう感動的に計画しています。

司会進行も、共同祈願もセミナー修了者が行います！

カップルごとに祭壇へ進み、司祭の祝福を受けます！

式の後には新しい信徒会館で、司祭とヘルパーがお待ちしています！

結婚クラスは、一足早く10月11日(日) 15:00から大聖堂で行われ、約350名の参加者がありました。なお前日10日、幼児洗礼も行われ、21名の受洗者がありました。

結婚クラスの 「感謝ミサ」に参加して

3ヶ月前挙式をしたばかりの私たちは、初めて結婚感謝ミサに参加しました。たくさんの子供たちの声があちこちで響いて、いつものミサよりずっとにぎやかでした。栗本神父様も「お子様が泣きやまないようでしたら、どうぞ遠慮なく泣き部屋をご利用ください」と、赤ちゃん連れの夫婦を気遣ってくださり、皆がひとつの家族のようでした。最後に平和の祈り、誓いのことばを夫婦そろって唱え、これからも家庭が平和であるように、出席者全員でお祈りしました。

懇親会では、栗本神父様の音頭で乾杯をした後、同じクラスの友人や、ヘルパーの方たちと、久しぶりにお会いして、楽しいひとときを過ごしました。
(吉岡)

皆さん こんにちは
ガラルダです。



「最高の相手は、自分の一人である喜びを奪わないで、一緒にいる喜びを感じさせる人である。」という言葉のさっぱりした思い遣りは、人

と、特に配偶者、子供たちとのコミュニケーションの背景になっているはずだと思います。

なお、自分とのコミュニケーションといえば、スペインの詩人マチャド(1875~1939)の詩が蘇る。「私は、声(本物)とこだま(偽者)を聞き分けるには、いったん立ち止まる。」足音の雑音を避けて、沈黙でいったん立ち止まるのです。「あらゆる声の中から一つを選ぶ。春の夜明けの純潔な鐘かのように聞こえるその声だけを選ぶ。愛するという神秘は、この声から学んだことである。この声を深く聞く人は、いつかきっと神と話せるという希望に生きる。」つまり、心

人と、自分と、 神とのコミュニケーション

の声の中で、神の声が感じられるわけです。

しかし、神とのコミュニケーションは、どうやって成り立つのでしょうか。思えば、次の伝説を聞いたことがあります。ある農夫は毎日、仕事の帰りに、教会のベンチに座って、一時間ほどじっとしていたそうです。その場面をいつも感心していた人は、ある日、「すみませんが、どのようなお祈りをなさっていますか。」「やあ、神様と話しています、ただ。」「失礼ですが、あなたは何を話していますか。」「私ですか。何も話していませんよ。神様の話を聞いているだけです。」「それでは、神様は一体何を話していますか。」「神様ですか。何も話していませんよ。私の話を聞いているだけです。」「という伝説。要するに、神と一緒にいるという充実した沈黙の中で、言葉の要らないコミュニケーションが十分取れるのです。

ハビエル・ガラルダ



特集

夫婦のコミュニケーション

—「夫婦」について考えてみよう—

「夫の言い分・妻の言い分」への投書をきっかけに、夫婦間のコミュニケーションについて座談会を開きました！

数カ月前に2人目の子供が生まれ、育児と家事が忙しくなりました。猫の手も借りたい状態で、夫の休みの日には、つつい頼み事をいっぱい口にしてしまいます。そんな時に、何も言わなくても、私の思っていることを気づいて、家事を手伝ってくれたらとても嬉しいのですが、なかなかうまくいきません。夫も休みの日ぐらいいはゆっくりしたいのはよくわかります。でも主婦には休日がないこともわかってもらえたらと思います。(結婚6年目を迎えた妻からの投書)



話し手

【若手婿殿】

35歳、結婚4年目、コンピュータ会社に通勤、家族と夕食をとるのは週2日くらい。週末、休日は家で過ごす。真面目で誠実。家族第一に考え、世間的な概念にとらわれない「自分たちの暮らし方」を模索中だが、結局伝統的な考えに落ち着きそうな保守的な自分を発見し、ときに心の中で葛藤する。妻は専業主婦。3歳の男児がいる。

【智美さん】

33歳、結婚7年目、昼はパートで勤め、夜は大学で社会福祉の勉強をしている。子供はなく、夫は会社勤めで残業が多いが、食事は遅くてもほとんど自宅です。週末は共に過ごす。将来は福祉の仕事をしたと思っている。

【桂子さん】

29歳、同じ設計事務所で夫と知り合い結婚して5年目。今は専業主婦で家事と3歳の長女と1歳の長男の世話で手いっぱい。夫は仕事が忙しく、家でほとんど食事をしないし、週末のうち一日は友人とテニスや釣りをして過ごすのが少し寂しい。子供が小さいので自分も参加できないのが不満。

【ヘルパーおばさん】

54歳、結婚30年目。初めは専業主婦だったが、時間に余裕ができてからは、幼児教育の塾で教えている。会社勤めの夫は昔ほど忙しくなくなり、夫婦で共有する時間も増えた。そのためか夫との意見の食い違いが少し気になるが、お互いに何でも話し合える安心感はある。長男はすでに結婚し、二人の娘は社会人と大学生。

して欲しいことは、はっきり言う！?

編集局：上記の『One』読者からのご意見を聞いて、皆さんはどのように感じられましたか？

智美さん：「何も言わなくても、気づいて」と期待しないで、して欲しいことをさっと、はっきり言うほうがいいと思います。いつも自分の意思表示をして、相手に分かってもらいたい、という考え方が私は好きです。

若手婿殿(以下婿)：でも、お互いに相手の思いを読み取ることも大切じゃないですか？「察する感覚」を研く、と言うか。

ヘルパーおばさん(以下おばさん)：そうね。でも、「察している」つもりで誤解していることって、案外多いよね。私たちが配偶者に求める温かさのひとつに、「甘えたい、察して、思いやってほしい」ということがあると思うけれど、それにあまりにも重きを置き過ぎて、本音で話し合わない癖がついちゃうと怖い。

桂子：でも、頼み事をたくさんした後、自己嫌悪に陥っちゃうことってありますよね。仕事が忙しい夫には、息抜きが必要だとは思っているものの、私だって休みたいとも思うし。今回の投書にもそれが感じられる。

おばさん：あら、「頼む」というより「一緒にしましょう」という感覚を養っていったら？家事、育児は大変なだけじゃなくて、「とてもクリエイティブな楽しい仕事なのよ」って夫にアピールするのよ。



智美：それに、自己嫌悪になることはないと思います。夫婦なんだから、頼み事をして喧嘩になっても平気くらいの仲になりたい。わが家では、喧嘩もコ

ミュニケーションの一つと思って、しょっちゅう喧嘩しちゃう(笑)。勿論、言い方や言うタイミングに注意して穏やかにやっていく方が良いでしょう。

桂子：あっ、わかります。注意をしたり、頼みごとをしても決して雰囲気悪くしない人っていますよね。

婿：同じ叱られるのでも、イタリア映画に出てくるようなスカッとした肝っ玉母さんなら、さっぱりしていて尾を引かないけど、じめじめした姑風だと、ただの意地悪おばさんとか(笑)。

おばさん：そういう意味で、自分と相手の性格や、自分のものの言い方を、日頃から意識しておくことも大切ね。相手がひどく傷ついたり、ひねくれてしまうような言い方だと、そこからは何も生まれない。相手を負かすのが目的じゃないんだから。と言っても、つい感情的になって言い過ぎたり、言い足りなかったりしちゃうのよね。

編集局：はっきりと言う、ということと関連するのですが、配偶者にとって嬉しくないことでも、伝えるべきか、否かについてどう思いますか？

智美：思ったとおりに言わないと誤解につながる恐れがあるから言うべきだとは思いますがけど…うん、むずかしい。

桂子：そう、ありのまま言う相手はひどく動揺してしまう可能性もあるし。

婿：はっきり伝えるかどうかは、それが夫婦にとってプラスになるか否かによっても異なるでしょう。

おばさん：伝えなくてはならないことは、言うべきでしょうね。たとえ感情的にこじれることがあっても、子供を含めて家族の生活はきれいな事じゃあ済まされないので、根本に信頼とか赦し合う気持ちがあれば、なんとかなるんじゃないかしら。

夫婦と子供

編集局：ところで、子供がいる夫婦の場合、会話が少なくなってしまうケースが多いと聞きますが、皆さんの場合どうでしょう？



婿：確かに、夕方になると妻は育児で、私は仕事で疲れて、二人で会う頃には話をする気力が弱っている時である。話す内容も子供のことが圧倒的に多いような気がする。

おばさん：子供が小さい時はそれも自然だと思います。私はこの頃意識して食事の時の話題を考えるようにしているの。新聞や本で読んだこと、趣味や社会のこととか、今日の出来事とか…娘たちを含めて、結構話が弾みます。

桂子：あと、子供がいるそばで夫婦が話している間に、子供が自分に関心を寄せてもらおうと割り込んでくることが多いですね。

智美：そういう時、子供を注意することも大切だと思う。「いまはお父さんとお母さんが話しているのだから」ってはっきり言うことで、幼い頃から子供に「夫婦」という特別なつながりを示すことにもなるし。

「私たちの」常識、価値観が大切！

編集局：ずばり「話し合い」についてひとことずつ。

婿：投書に戻りますが、男も育児や家事を率先してやるべきだと思う一方、休日にゆっくりしたいという夫の気持ちもよくわかる。自分の父親を含めて、世の中の中年以上の父親たちが、これまで家で堂々と(?)ゴロゴロしてきた姿を見てきたせいも、何も家に帰ってからも働きたくない、と多くの夫は感じると思う。昔からの男性中心の考え方に疑問を持つことから逃げているんですね。話し合うことから。ふ、ふ、ふ(笑)。

おばさん：それだけ自覚症状があれば、「粗大ゴミ」にはならないでしょう(笑)。

智美：私たちに子供がいらないせいか、二人でしょっちゅう話し合います。よく、私が夜学に通っていることを「よくご主人が許してくださいさるわね。」と言われるけれど、私たちは「許す—許される」関係ではなく、「話し合う—二人で決める」という関係だから、許可という意味での「許す」という言葉が全くピンと来ません。話すことが生活の基本という感じ。

桂子：私の場合、子育てに追われちゃって、なかなかそう理性的に話し合えていませんけど…。話し合い以前に、私たち夫婦の時間を

作るって言うことが大切だと思います。そして、自分たちの問題は、配偶者以外の家族や親類、友人に言うのではなく、まず相手に言うことにしています。そうじゃなくちゃおかしいと思う。

おばさん：自分たちがかけがえのない「夫婦」であるということに自覚して、一般的ないわゆる「常識」に逃げ込まないで、「話し合い」を通して、その夫婦二人の価値観というか、生き方を育てていきたいわね。二人がただの「同居人」じゃなくて、「相棒」になれるように。

婿：もっと「夫婦」を意識して考えてみるといいのかも知れない。夫婦を肯定的に、より高い次元で捉え直してみるとか。抽象的な言い方になっちゃうけど。

智美：そう、「夫婦」という特別な人間関係を、時々新しく考え直してみるといいですね。そして、世に言う「常識」に左右されないで、「私たち夫婦の価値観」をコミュニケーションを通して作っていく。

編集局：今日は本当にありがとうございました。



?????



神は最初に天と地を造られた。「光あれ」と神が言われると光が生まれた。神は光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。これが天地創造の第一日目だった。二日目に神は大空の上と下に水を分けられた。三日目に海と陸が分けられ、陸には草と木が造られた。四日目には太陽と月と星、五日目には魚や鳥を、六日目には家畜、土を這うもの、地の獣を、そして御自分にかたどって男女の人を造られた。神は造られたものすべてを良しとされ、祝福された。(旧約聖書、創世記 一章の要約)

天地創造

「はじめに、神は天地を創造された。…」で始まる旧約聖書の創世記の第一章は天地創造について記述しています。ざっと通読してみると、稚拙とも思えるほど簡単明瞭すぎて、とても文字通りには信じられないと思えるのが普通だと思います。と言って反論する実証もありません。そこで結局は否定も肯定もできないで困惑せざるを得ないと言うのが、皆さんの実情かも知れません。

この第一章で語られている事柄一つ一つに対して、私たちの合理性に照らし合わせてそれなりの説明、解釈を求める読み方も可能ですが、私は次のように考え

シリーズ

それって本当？

粟本昭夫

たいと思います。

第一章は紀元前のヘブライ人が、自分たちの長い信仰の歴史の中に培ったひとつの民族的確信を、書き綴ったものと言えます。ではその確信していたものが事実と一致していたかどうかが問題なのでしょうか。そこで一考する必要があります。古代人の書いている個々の出来事そのものは信じがたいものが多いのですが、全体を見通して根本的な事柄——神の存在、無からの創造、神の全能、被造物の

善性、存在物の秩序性、大自然の合理性など——は現代人の我々にとっても熟慮すべき課題と言えます。これらは昔から人種を問わず、必ず人間が不思議に思い、考え込んでしまう事柄なのです。つまりこの課題について見る限り、古代人、現代人の間に差は無いようです。文章表現は昔話風で「古代ヘブライ人の書」だとしても、その内容の根底にある思想を、「神の書」と見ることはできます。神の意志、意図をそこに読み取るのが現代人の聖書の読み方でしょう。



《 教会学校にいらしてみませんか ―どなたでも大歓迎― 》

聖イグナチオ教会が開いている教会学校を取材に行ってきた
「なぜ教会学校に？」

「学校以外の友達を増やしたくて…。」(小5女)、「小さい時から、神様を知ってほしくて…。」(小3母)、「信者だったから…。」(小4男)、「あのオウム事件があったので、教会学校に行くことと変な目で見られるんじゃないかなと思ったけど、友達に誘われて…。」(中2女) とにかく、皆、楽しそう!

遊びや、ミサ、お話をとおして神様とお友達になろう!

《土曜学校》 小学生対象

時：土曜日14:10～16:30(冬16:15)

場所：雙葉幼稚園 3F

現在約100名の子供たちが登録。

訪問した時は、初めての子供たちにも分かりやすい言葉、歌詞で、ちょうどミサの最中でした。終わって、「今日は、神様について勉強します。」とリーダーが言うやいなや、子供たちの「えーっ!」というブーイング? やっとのことで騒ぎを静め、勉強が始まりました。テーマは「お祈り」…。

「神様って、いつも私たちを見ているんだね。」

「お祈りは、神様に甘えることなんだ。」

そばにいる子供たちのかわいいつぶやきでした。その後は、さらに目の色を輝かせて、サッカー、野球、長縄、ハンカチ落としなどに夢中になっていました。

「人のことを思いやれる子供になってほしい。」リーダーの爽やかな言葉が印象的でした。

《日曜学校》 4歳児から小学生対象

時：日曜日 13:30～16:30(冬16:00)

場所：雙葉幼稚園 3F

現在約90名の子供たちが登録。

「月に1回は神様のお話をしますが、あとは特に宗教色を出さずに、日常生活を通して、神様に愛されていることを知ってほしい。七五三やお餅つきもします。」と、リーダーは話してくれました。

伺った時は、初めて来た子供たちがリーダーに肩車され、自己紹介している最中でした。迎え入れる子供たちも嬉しそうに大きな拍手…そして自分のクラスだと分かると、一生懸命話しかけ、ほんの十数分で「もう仲良し!」 当日は雨で、外で遊ぶことはできず、皆でビデオを見て、おやつをいただいて帰りました。



一生に一度しかない今を、私たちと過ごしてみませんか?

《中学生会》 中学生対象

時：日曜日 10:00～12:00

場所：聖イグナチオ教会

「教会の堅苦しいイメージを取り除き、忙しい毎日の中で、ほっとする場を提供したい。」とのことでした。いろいろな行事の



ほか、特に来年(1999年)3月には、3年に1度の津和野、山口、広島巡礼の旅があるそうです。毎回皆でテ

ーマを決め、ディスカッションをしています。その日は、12月にするクリスマスの劇について話し合っていました。

「将来の夢を確立したり、個性を養う中学生という時期、友達同士で磨きあい、その体験の中から、感覚的にキリスト教を学び、身近に神がいることに気づいてほしい。」と話すリーダーから、多感な時期を過ごす中学生の心を察知しようとする優しさが伝わってきました。

- ★各学校それぞれ、キャンプ、遠足、スポーツ大会、錬成会、七五三、クリスマス、餅つき、などの行事があります。
- ★大学生のお兄さん、お姉さんたちがリーダーになっています。
- ★雙葉幼稚園は聖イグナチオ教会から徒歩2分くらいの所です。
- ★常時、参加可。お問い合わせは教会事務所か寺嶋(03-3369-2124)まで。

編集後記

今回も文字が多くなってしまった!と反省しつつ第5号をまとめました。いつもワイワイガヤガヤの編集局は、号を重ねるにつれて形らしくなってきたように思います。今後も皆さんに楽しく読んで頂

ける●neを作っていきたいと思っておりますのでご意見、ご感想、取り上げて欲しいことなどをお寄せください。また、私も是非加わりたい!という方も問い合わせをお待ちしております!(柳谷)

クリスマスを新聖堂で祝おう!

ちょっと気が早いですけれど、今年のクリスマスのご予定は? クリスマス・イヴ(24日)も、クリスマス当日も、ミサが8回もあります。ぜひ参加してください!待ってます!



教会からのお知らせ

- 11月15日(日) 七五三祝福式15:00
- 29日(日) 結婚セミナー感謝の集い 15:45
- 12月3日(木) 聖フランシスコザビエル祭日
- 12月23日(水) クリスマス「子供と家庭のミサ」15:00
- 24日(木) キャンドルサービス17:00
クリスマス前夜ミサ18:00、19:00、20:00、21:00、22:00、23:00、24:00(英語)
- 25日(金) クリスマスマサ6:00、7:30、9:00、10:30、12:00(英語)
13:30(スペイン語)
15:00(ポーランド語)
18:00
- 31日(木) 一年の感謝ミサ18:00
- 1月1日(金) 元旦ミサ00:00、6:00、7:30、9:00、10:30、12:00(英語)
13:30(スペイン語)
18:00
- 2月5日(金) 日本26聖人殉教者祝日
- 12日(金) システイナ礼拝堂合唱団 19:00
- 17日(水) 灰の水曜日
- 4月4日(日) 復活祭

編集参加者(五十音順)

新井 康/直子 福富 達夫
内田 京子 藤枝 香織
岸 希依子 満尾 佳子
城間 正人 柳谷 晃子
鈴木 肇/庸子 山本 浩
武田 伸子

発行 聖イグナチオ教会 ●ne編集局
(担当/城間正人・鈴木庸子)

ご意見・記事投稿・アンケート返送は下記までお願いします。
〒102-0083 東京都千代田区麹町6-5
聖イグナチオ教会 ●ne編集局
TEL : 03-3263-4584
FAX : 03-3263-4585
URL: http://www.ignatius/gr.jp